

基本評価シート

様式

北海道 小平町大楸・花岡区域

(北海道留萌振興局保健環境部環境生活課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画（ニホンジカ）		
	令和5年度（2023年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（小平町大楸・花岡区域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	留萌振興局保健環境部環境生活課自然環境係
担当者名	橋本 道太郎	担当者連絡先	0164-428436
捕獲実施事業者	株式会社構研エンジニアリング （認定を受けている・受けていない）	予算額（※2）	198,199,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	98,729,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和4年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
20頭	6頭	20%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
72万頭※ （個体数指数：東部137、北部121、中部107、南部353）	東部：R8末に個体数指数50以下（H23を100） 北部・中部：R13末に個体数指数50以下（H23を100） 南部：R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
34,396頭（R4）	58,581頭（R4）	52,012頭（R4）

※令和4年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、紋別、網走、谷川）、中部地域（石狩、胆振、日高）の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に3～15万頭の間と推定

鳥獣関係統計より

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>小平町におけるエゾシカの農林業被害額は増加傾向にあり、冬から春にかけて日本海に面した丘の斜面にエサを求めたエゾシカの出没が多く見られ、エゾシカが関係する交通事故は平成30年以降、毎年10件以上発生している。</p> <p>これまで、小平町では、許可捕獲による有害鳥獣駆除を毎年実施しているものの、捕獲従事者の担い手不足等もあり、エゾシカ生息数の減少には至っていないと推察される。</p> <p>一方、日本海側気候の影響により冬季に多雪となりやすい留萌管内においては、エゾシカの捕獲は銃器によるものが大部分となっている。そのため、銃器の使用が困難な時間帯や場所においても効率的に捕獲し、かつ捕獲した個体を有効活用できるようにするために、わなによる捕獲を推進していく必要がある。</p> <p>このことから、冬季にエゾシカが集中する地域において、わなを使った捕獲手法を実践し、多雪地域におけるエゾシカの効果的捕獲技術を確立し、得られた知見については普及啓発資料としてとりまとめを行い、今後、市町村等に当該技術の普及を図り、「わな」の狩猟免許のみ所持している狩猟者でも効率的にエゾシカを捕獲できる体制、銃器の使用が困難な時間帯や場所においても効率的にエゾシカを捕獲できる体制を整えることにより、地域における捕獲効率の向上及びさらなる捕獲数の確保を図ることで、エゾシカを起因とする交通事故や農林業被害の低減を目指す</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	令和5年10月12日～令和6年3月22日(※委託期間)
実施区域	<p>小平町大楯・花岡区域</p> <p>小平町のほぼ中心部に位置している大楯・花岡区域は、西側は日本海に面し、海成段丘を形成する。東、南、北側は森林が広がっている。</p> <p>段丘の東側はトドマツやカラマツ、ミズナラの植林地が広がっており、下層はササに覆われている箇所も多く、夏場は餌資源が豊富にあるが、冬場は林内にある餌資源が積雪により埋もれてしまうため、国道に面した斜面で、強風により積雪が飛ばされて露出したササや若草を採餌している。</p> <p>しかし、令和5年度は実施区域近辺を含めて非常に広い範囲で大規模なササ枯れが発生しており、エゾシカの行動に対し、なんらかの影響が及ぶことが懸念される。</p> <p>積雪の増加した期間は広範囲を移動することなく、風雪をしのげる森林内を避難場所にしており、小平町の国道沿いの丘の斜面は1日に300頭以上のシカが目撃されている。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入 ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人北海道猟友会留萌支部小平部会：調整会議に参加し、現地のエゾシカの動きについての情報提供や、捕獲手法についての助言。 ・地方独立行政法人北海道立総合研究機構：調整会議に参加し、効果的な捕獲手法についての助言。捕獲実施箇所において現地踏査への同行及び事前調査についての指導。 ・北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課エゾシカ対策係：同上 ・小平町経済課農林係：調整会議での意見交換等。
事業の捕獲目標	<p>(85 %達成) = (実績値 34 頭) / (目標値 40 頭)</p>

捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟 <input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟 <input type="checkbox"/> その他（ ）
捕獲個体の確認方法	<p>【わな猟】</p> <input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな <input type="checkbox"/> その他（ ） ※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：こまめに見回りを行い、錯誤捕獲があった場合には速やかに対応するようにした。） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について</p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制、緊急連絡体制図、周辺住民等に対する周知体制、及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p> <p>受託者の内部にあっては、上記で定めた安全管理体制に基づき、従事者全員がそれぞれの役割を把握できるよう安全管理体制を構築させた。</p> <p>捕獲事業の実施にあたっては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整会議を開催した。</p> <p>捕獲事業の実施期間は、実施区域へ立ち入る際に腕章を着用し、捕獲事業者であることを明確にした上で、必要に応じ関係者以外の立ち入りを規制した。</p> <p>また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は冬期間に実施されることから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> 捕獲従事者数：10人 （内訳） 正規雇用者： 8人、期間雇用者： 2人 日当制： 人

3. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：捕獲目標頭数の40頭にはわずかに達していないものの、くくりわなによる捕獲手法を追加したことにより、昨年度の捕獲頭数である6頭から約6倍の34頭の捕獲に至り、見回り労力等の点から当地域では使用者の少なくくくりわなにおいて、適切な運用方法によることで労力を軽減しつつ、一定の捕獲成果を上げられることを示したという点で、概ね当初の目標は達成できたと考える。</p> <p>改善点：くくりわなを採用したが、わなを移動させた範囲をエゾシカの行動範囲が上回っており、捕獲実施期間終盤に捕獲効率が低下したことで、捕獲目標頭数を達成することができなかった。</p>
【実施期間】	<p>評価：11月～12月は馴化の期間とし、1月～3月上旬までを捕獲の期間とした。また、囲いわなでの捕獲期間については、昨年度事業における季節によるエゾシカの出没数の変化を踏まえ、2月～3月上旬までとした。</p> <p>当該地域にはヒグマも生息しており、報告されているヒグマの活動期間と被らないように捕獲実施の期間を設定した。</p> <p>上記を踏まえて実施期間を設定した結果、目標頭数は概ね達成することができ、捕獲実施期間中においては、ヒグマの痕跡の発見及びヒグマが自動撮影カメラに撮影されることもなかったため、実施期間は適当であったと言える。</p> <p>改善点：例年であれば、天候の荒れる12月中旬から2月中旬にかけてはエゾシカが林内から動かず、捕獲効率が著しく低下するため、エゾシカの行動変化に弱い囲いわなの捕獲期間を2月～3月に設定したが、令和5年度は12月時点で過去最高クラスの積雪を記録し、例年とエゾシカの行動が大きく異なってしまった。その結果、12月～1月にかけてエゾシカが最も活発に行動し、囲いわなの捕獲期間である2月～3月にかけてはエゾシカの活動が落ち着いてしまい、捕獲効率が著しく下がってしまった。12月及び1月時点で、エゾシカの活動状況を考慮し、柔軟に捕獲期間を再設定することが必要であったと考える。</p>
【実施区域】	<p>評価：当該区域は本来、捕獲に係る規制等は特にないが、近隣で実施されている国道工事のため銃猟規制が敷かれており、捕獲圧から逃れるために近隣から多くのエゾシカが集まっている。区域内は広くトドマツの植林地であるため、エゾシカの越冬地として適しており、国道沿いの斜面に出てきて、ササ及び若草を採餌している。しかし、エゾシカの出てくる斜面は国道沿いのため、銃猟による捕獲は行えず、地元猟友会は手を出せないでいる。</p> <p>地元猟友会はわなを用いてのエゾシカの捕獲は実施しておらず、当該区域では捕獲ができないため、道が主体となる必要があり、かつ近隣からも多くのエゾシカが集まる越冬地であるため、捕獲の実施区域として適当である。</p> <p>改善点：当該区域においてエゾシカが高密度になった大きな要因は、捕獲圧から逃れるために近隣からエゾシカが移動してきたことと想定される。そのため、当該区域における銃猟規制は国道工事に伴う一時的なものであり、規制が解かれた後は、</p>

	<p>本手法に適した実施区域を選定する必要がある。</p>
<p>【捕獲手法】</p>	<p>評価：多雪強風により変化するエゾシカの行動に対応できるように、設置箇所を随時変更できるくくりわなを使用するとともに、昨年度事業で得た知見を活かしより効果的な捕獲手法を検証するため、囲いわなによる捕獲も並行して実施することとした。</p> <p>また、囲いわな及びくくりわなの一部については、付近に設置した IoT カメラによってリアルタイムでわなの状況を監視できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くくりわなについて：針葉樹林下におけるシカ道上若しくは滞留地点に設置することとし、餌による誘引を併せて実施した。 <p>見回り労力等の点から当振興局管内のような多雪強風地域ではあまり使用されていなかったくくりわなではあるが、上記のようにシカ道や滞留地点があり風雪のしのげる針葉樹林下に設置することで、効率的な捕獲を実施することができた。見回り労力の点については、スノーモビルを利用することで大幅に軽減することができた。</p> <p>目標頭数 20 頭に対して、31 頭の捕獲があり、わなの移動範囲を広げれば、さらに捕獲頭数を増やせる余力を残しているため、くくりわなによる捕獲は有効であったと言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・囲いわなについて：風雪が軽減される針葉樹林下に設置し、捕獲システムは IoT による遠隔操作システムを用い、止め刺しはポケットネットに追い込んで行うこととし、わな内外に餌を配置しエゾシカを誘引した。 <p>昨年度事業の改善点を踏まえて、エゾシカの滞留地点に近い針葉樹林下のような、エゾシカがアクセスしやすい箇所に設置したが、囲いわなの捕獲期間である 2 月～3 月にかけてはエゾシカの滞留地点が変わってしまい、わなに近づく個体が大きく減ってしまったため、目標頭数 20 頭に対し、3 頭の捕獲となった。</p> <p>多雪強風地域においては、天候によってエゾシカの行動が年度若しくは日ごとに大きく変わるため、設置後の移動ができない囲いわなで安定した成果をあげることは難しいと判断した。</p> <p>しかし、生体捕獲の必要がある場合は、囲いわなが最も有効であり、本事業においても、囲いわなで捕獲された個体の内 1 頭に GPS 首輪を装着したため、囲いわなを採用した意義はあったと考える。</p> <p>改善点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くくりわなについて：エゾシカの行動変化に応じて設置箇所を適宜変更することとしたが、当初想定していた範囲よりもエゾシカの行動変化の範囲が広く、設置箇所の変更で対応しきれなかった。見回りにスノーモビルを用いていたため、わなの設置予定範囲を広げておく必要があった。 ・囲いわなについて：事前調査で発見した大規模な滞留地点から、積雪の関係で別の滞留地点にエゾシカが移動してしまったことが、捕獲頭数が伸び悩んだ要因であるが、馴化期間として設けていた 12 月～1 月にかけてはわな内に入る個体が多く確認されていたため、捕獲の実施期間を変更して 1 月から捕獲を開始するなど、柔

	<p>軟に捕獲実施期間を設定する必要があった。また、滞留地点が変わった個体に対して、もっと広範囲に誘引餌を配置するなど、誘引改善及び強化も必要であったと考える。</p>
<p>2. 体制整備に関する評価及び改善点</p>	
<p>【実施体制】</p>	<p>評価：地元猟友会や道総研などの有識者からも助言を受けたことで、わなによる効果的な捕獲手法の検証という点でも有意義な事業であったと言える。振興局職員も必要に応じて現地に赴き、生息状況調査や捕獲個体の搬出をサポートした。</p> <p>改善点：受託者が当振興局管内の事業者ではないため、作業のために現場に赴くこと自体が大きな負担となっていた。地元猟友会とコンソーシアムを組むという手もあったが、地元猟友会はエゾシカに対してわなでの捕獲を実施しておらず、協力体制を敷くことができなかった。</p>
<p>【個体処分】</p>	<p>評価：捕獲頭数 34 頭に対して、内 25 頭がペットフードとして有効利用された。残りの 9 頭の内 7 頭が廃棄処分となり、残り 2 頭は GPS 首輪装着作業のため捕獲され後に放獣された。</p> <p>改善点：当初、捕獲個体の持ち込みを依頼していた業者の定休日が水曜日であったため、水曜日に捕獲された個体については廃棄処分となっていた。</p> <p>その後、他の業者にも連絡をし、水曜日でも捕獲個体の有効利用が可能な体制を構築した。</p>
<p>【環境配慮】</p>	<p>評価：捕獲と並行し、エゾシカの被害状況調査も併せて実施した。また、当該区域では大規模なササ枯れが発生していたため、例年よりも餌資源が少なくなっており、トドマツやミズナラに対する樹皮剥ぎが目立っていた。</p> <p>くくりわなのアンカーとして利用していた立木に対しては、くくりわなが接する箇所にもゴムチューブを巻くなど、保護対策を講じた。</p> <p>改善点：積雪前と比べて明らかにトドマツとミズナラに対する樹皮剥ぎが増えているため、ササ枯れや大雪がエゾシカの行動にどういった変化をもたらし、植生被害の拡大に繋がったのかを継続して検証していく必要がある。</p>
<p>【安全管理】</p>	<p>評価：緊急連絡体制及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制を構築するとともに、看板等により周辺住民等に対する周知を行った。</p> <p>隣接市町村において冬眠しないヒグマがいるとの情報提供があったため、事業実施期間中はヒグマ対策を重視することとした。捕獲の実施期間は地元猟友会が確認しているヒグマの活動時期とはずらして設定した。誘引餌についても、過去にヒグマが食べていたと報告のあがっていないルーサンヘイを使うこととし、ヒグマの誘引を防止した。</p> <p>また当該地域は多雪強風地域であるため、悪天候が予想されている場合は作業を中止するなど従事者の安全確保を図った。</p> <p>改善点：新たな捕獲手法を導入する場合は、適宜新たに適切な安全管理体制を構築する必要がある。</p>
<p>3. その他の事項に関する評価及び改善点</p> <p>○検証事項について</p>	

・くくりわなの効果的な捕獲手法について：3種類のくくりわなを使用し、多雪強風地域においてどのくくりわなをどのように設置すれば最も効果的なのかを検証した。使用したくくりわなは「平型」、「弁当箱型」、「踏み落とし式」の3種類であった。この中で最も捕獲効率が高かったのは「踏み落とし式」であり、凍結などの動作不良が最も少なかったのも「踏み落とし式」であった。反対に最も捕獲効率が高く、動作不良が多く発生したのは「弁当箱型」であった。

設置場所に関しては、針葉樹林下のシカ道及び滞留地点に設置することで、誘引餌を用いることなく捕獲することができたが、誘引餌を用いることで捕獲効率はさらに向上した。

・スノーモビルによる労力軽減効果について：わな捕獲において、見回りにかかる労力の大きさが難点であり、当該地域においてわなによる捕獲の従事者が少ない要因でもある。人力とスノーモビルでの見回り及び搬出にかかる時間を比較し、スノーモビルの有効性を検証した。

結果として、スノーモビルを使用した場合人力と比べて、約1/3の時間で現場まで到達することができた。また、搬出についても人力であれば1人当たり成獣1頭が限度であるが、スノーモビルであれば1台当たり成獣4頭の搬出が可能であった。

上記のとおり、多雪地域においてはスノーモビルを利用することで、見回り及び搬出の労力を大きく軽減できるが、大雪後の吹きだまりなど不安定な路面の走行は難しく、吹きだまりの除去など事前にある程度路面の整備が必要になる。

上記をまとめると、多雪強風地域におけるわな捕獲については、スノーモビルを移動に用いて、シカ道や滞留地点のある針葉樹林下に「踏み落とし式」のくくりわなを設置し、餌による誘引を併せて実施することで効果的にエゾシカを捕獲することができる。

4. 全体評価

銃器による捕獲が大部分となっている当振興局管内のような多雪強風地域においても、適切な運用をすれば、くくりわなで一定の捕獲成果を上げられることを示すことができた。囲いわなについては、目標頭数に達しなかったものの、GPS首輪の装着など生体捕獲が必要な場面では有効であることを示すことができた。誘引方法の改善やわな設置範囲の拡大などによりさらなる捕獲頭数の増加が見込めたが、従事者の負担や悪天候による作業の中止が複数回発生したことなどを加味すると、十分な成果をあげられたと考えられる。

令和5年度はササ枯れや大雪など例年にはない特殊な環境での捕獲となったため、捕獲効率や誘引餌の効果については継続して検証する必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

留萌管内には、海岸沿いを中心に比較的規模の大きな越冬地が多く分布していることから、当該地において効果的捕獲技術を確立することは個体数管理の充実に大いに寄与するものと考えられる。また、当該地域を含む斜面に出てくるエゾシカについては、市町村では捕獲ができていないため、斜面に出てくる個体を越冬中の林内で捕獲するという本事業の試みは、当該地域におけるエゾシカ被害の低減に繋がる可能性があるため、今後も事業を継続していくことが望ましい。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ()	
③目撃数	<input type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

項目	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	目撃数をまとめた資料がない

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※¹： _____ 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 人日

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	人日	人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数^{※1}： _____ 95 人日

事前調査人日数概数^{※2}： _____ 17 人日

出猟（捕獲作業）人日数： _____ 78 人日

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	948 基日	37 基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	34 頭	6 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.65	0.5	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.5	0.5	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	31 頭	918 基日	0.03 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	3 頭	30 基日	0.1 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：わな稼働総数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： _____ 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： _____ 25 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成している。捕獲した個体の処理については、処分場の処理票または有効活用事業者の受取証の確認を行っている。